

令和元年度 卒業式 校長式辞（令和2年3月2日）

やわらかな日差しの中に春の訪れが感じられる今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、岡山県立岡山朝日高等学校第71回卒業式が挙行出来ますことを、心より感謝申し上げます。

また、この度のやむを得ない事情でこの式に参加することができなかった、来賓の皆様のご祝福の気持ちや、本校2年生、1年生の卒業生に対する感謝の気持ち、管弦楽部員の心を込めたハーモニーが、この空間に満ち満ちていると感じます。

ただ今、347名に卒業証書を授与いたしました。栄えある岡山朝日高校の卒業生となった皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、本校に入学して以来、今日に至るまでの3年間の様々な思いが胸をよぎり、感無量のことと拝察いたします。成長されたお子様の今日の門出を、心よりお慶び申し上げます。

卒業式に臨み、卒業生の皆さんの思いはどのようなものでしょうか。3年前の入学式以来、高い志を持ちつつ、努力や挫折や再生を繰り返してきた学習や進路決定、友と葛藤しつつも心通わせて取り組んだ部活動や朝日祭など、時間がいくらあっても足りない密度の濃い日々を過ごしてきました。それは、厳しい経験であるとともに、その厳しさを克服することも含めて楽しいこともたくさんあり、「記憶に残る」日々であったと思います。

一人ひとりが自分らしく、また、時に新しい自分をつくって努力してこられた皆さんに対し、惜しみない賛辞を送り、ご卒業を心から祝福いたします。

皆さんの今日あるのは、皆さんの努力は勿論、これまで支えてくださった保護者の方々の深い愛情、同窓生や、気づきにくいかもしれませんが地域社会の方々の、岡山朝日高校の生徒に対する温かいご理解とご支援の賜でもあります。このことを、決して忘れないでください。

本校の教育は、長い伝統の中で培われてきた「自主自律」を重んじ、自由を尊重する態度の涵養を基本としています。これは本校の前身である旧制岡山中学・岡山一中に学んだ生徒たちの所謂一中精神が源流です。また、本校は、旧制第六高等学校跡地を校地とし、その美しい自然空間とともに知的教養を志向する精神的空間も引き継ぎ、「自重互敬」の精神や教養豊かで品性の立派な人間を目指す校風も大切に引き継がれてきました。

皆さんが自覚するしないにかかわらず、本校での三年間の生活が、一人ひとりのこれからの人生にとって大きな力となることは間違いないと考えます。皆さんには、人生の時々、その原点となる本校での生活を振り返り、誇りをもって歩んでいただきたいと思います。

今日の門出にあたり、三つのことを期待しています。

まず、社会や時代にただ「対応」するのではなく、新しい社会を、よりよい社会をつくる主権者としての意識を持ち、行動することです。少子高齢化、グローバル化、AIやIoTなどの技術革新の急速な進展による新たな社会に目を向け、公的な問題について自らのこととして受け止め、批判的かつ建設的な対話と、自分にできることを考え実行することです。皆さんには日本だけでなく世界のリーダーとしての役割も期待されています。

次に、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見出していく努力をすることです。人生に唯一の正解はありません。しかし、正解を求めて、いやむしろ正解のある問いでなく、まだ答えのない問いを立て、自らその問いに答えを出さなければなりません。このことは、大学での学問や生活、そして職業生活、社会生活においても必須のことです。解決の道筋がすぐには明らかにならない課題にこそ積極的にチャレンジする気概を持ち続けてください。

最後に、「自分自身を大切にすること」です。皆さん一人ひとりが今ここにいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。自分自身を大切にすることが、「一人ひとりのよさ」を認めることにも繋がると思います。

どうか健康には十分留意し、本校で学んだこととともに、家族や友人、後輩の皆さんや教職員との絆を胸に、人生を力強く歩んでいってください。

終わりにになりましたが、本校教育に対しこれまでご支援・ご協力くださいました多くの方々に心からお礼を申し上げ、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)